

東久留米市立東中学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	- 文学的文章の心情の読み取り・情景の読み取りなどに課題がある生徒が見られる。 - 説明的文章の展開を捉えるのを苦手としている生徒が見られる。 - 漢字を書いたり、読んだりすることに抵抗感のある生徒が見られる。	- 文学的文章では、心情を表す表現を確認し、その表現に着目しながら理解させていく。 - 説明的文章の展開を段落やキーワードを確かめながら理解をさせていく。 - 漢字テストや視写を毎時間授業の初めに行い、漢字の読み書きの定着を図る。	◎単元後にワークやワークシートの点検を各学期3回程度することにより、授業に対する予習復習を全体の8割実施するようにする。 ○漢字テストを週一回程度行うことにより、漢字の書き取りの習熟度を8割とする。
社会	- 資料の読み取りやグラフの作成についての理解が浅く、資料を使って表現する力が不足している生徒が見られる。 - 提示された資料を基に、自分の考えをまとめ、言葉で説明するのが苦手な生徒が多い。	- 発表の機会を増やし、教科書の資料や地図を読み取り、発表させたり、ワークシートに記入させたりする。 - 自分の考えや意見を文章にまとめさせる機会を増やすとともに、失敗を恐れずに発言させる工夫をする。	◎ワークシート・レポート等で、資料の読み取りやグラフの作成を要する課題や単元テストを設定する。（中単元に1回） ○ワークシート・レポート等で、資料を基に自分の考えを説明させる課題や単元テスト設定し、単元テストでは正答割合が8割以上の生徒が80%以上を目標とする。
数学	- 課題解決に必要な知識について、数学的用語の意味や内容をなんとなく理解しているが、確実な定着には至っていない。 - 課題解決に向けて、今まで学んだ知識や技能を基にしながら、筋道を立てて考え、表現することが苦手な生徒が多い。	- 課題解決に必要な知識や概念について、数学的用語等の意味を書かせるなど、確認をさせながら定着を図る。 - 解決に必要な知識を確認しながら、結論に至るために、最終的に何が分かれば数学的に解決できるかを発表させる。 - 思考の過程が分かるように、途中式及び何を基にして解決したかをノートに書かせる。また、思考の過程を、発表によって共有する時間を増やす。	○問題集や計算練習ノート等で、問題解決に必要な知識の理解に向けて、どの知識を使ったかをしっかりと書かせる。（しっかりと書ける生徒を70%以上とする。） ○思考の過程を、学んだ知識を基にして理由を示しながら表現できる生徒を50%以上とする。 ◎ノートやワークシートから、思考を整理することによって、次の学習への意欲につながったと判断できた生徒を80%以上とする。
理科	- 理科に興味があるが、身の回りの自然現象に結び付けて考えることができていない生徒が多い。 - 内容を理解しながら実験を行っている生徒が少ない。	- 身の回りの自然現象を授業の内容と関連付けて、関心を向けるように工夫していく。 - 実験がただの作業にならないように、目的を明確にしてから実験を開始していく。	◎授業ノート、ワークシートなどの点検を行い、各学期に1～2回程度提出させる。ノートで授業の復習ができる生徒を80%以上とする。 ◎レポートを提出させ、実験の目的や実験方法、考察などを確認することで、実験内容が理解できる生徒を90%以上とする。
音楽	- 積極的に取り組む生徒が多いが、自信が無く、苦手意識をもち取り組む姿勢が消極的な生徒もいる。 - 音楽的な要素や楽曲の構成に注目して、積極的に表現活動に取り組めるようにする。	- 基本的な技術が身に付くように繰り返し練習をして自信を付けていく。 - 生徒が分かりやすく、興味をひく楽曲を用いて学習する。皆で協力しアドバイスしあう雰囲気をつくる。	◎実技テストで課題を提示し、良かったところは自信につながるように伝える。 ○表現力が上達したと感じる生徒を70%以上とする。 ○ワークシートを点検し、楽曲の理解表現の工夫を感じられる生徒を70%以上とする。

美術	・意欲的に取り組める生徒が多いが、美術室では制作を4～5人で座る大きな机で行っているため、他者の制作に気を取られ、集中できないことがある。	・題材の目標、活動内容を明確にし、個での制作の時間と、生徒同士で鑑賞をし合う時間のメリハリを付け授業展開を図る。	◎各題材において発想構想の段階、制作過程、作品完成時に生徒同士で鑑賞し合ったり、意見交換をしたりする場を3回は設ける。
	・表現の活動を通して基礎・基本を定着させ、中学美術の基盤をつくる。	・ワークシートや教科書、ICT等を利用して基礎・基本を学び、知識として学習した上で制作に取り組み、技術の習得を図る。	○ワークシートを提出させ、生徒の理解度を確認する。また、実技において80%以上の生徒が基礎・基本を習得できるようにする。
保健体育	・意欲的に取り組む生徒と苦手意識のある生徒の二極化が見られるが、ルールやマナーを守って授業に取り組める生徒が多い。	・活動の楽しさを味わわせながら規範意識が身に付くよう、各単元で運動の特性やルール、マナーの指導を行っていく。	◎授業観察（毎時間） ◎単元毎に全員のノートの点検を、学期に2～3回行い、80%の生徒の基礎基本の定着を図る。
	・運動に対しての興味・関心に差があり、グループで課題を解決したり作戦を立てたりする協働学習を苦手とする生徒がやや多い。	・本時のねらいや取組内容を明確に示し、一人一人が考えながら、より意欲的に授業に取り組めるようにする。	◎学習カードやノートの点検（月1～2回） ○未提出や内容が不足している場合は再提出を促す。
技術	・意欲的に取り組める生徒が多いが、明確な自分の考えをもち、表現することが難しいと感じている生徒が少数いる。	・課題の活動内容を明確にし、個での制作の時間と互いに相談し合う時間にメリハリを付け、作品に自分の考えを表現できるよう支援する。	◎振り返りシートを点検する。 ○ワークシートを活用し、学期末にまとめて提出させる。
	・工具、機械、治具を有効に使用できるよう、安全に留意しながら指導していく。	・作業ポイントごとに説明を入れ、取り組みやすいようにする。	◎作業過程表を毎回提出して作業内容と注意点などを確認させながら、工具、道具の使い方を80%の生徒に身に付けさせる。
家庭	・興味・関心、疑問を解決しようという意欲がある生徒がいる。一方、集中を持続させることが難しい生徒もいる。	・課題の内容を明確にし、課題に対しての疑問や問題をグループで話合う時間を作り、その結果をグループ毎の意見として発表し、また話し合いをヒントに内容を理解して家庭科の楽しさを見つけられるように支援していく。	◎まとめたことを発表する。 ○プリントの記述内容、振り返りカード、製作物の提出95%以上とする。
外国語	・学習した単語を口頭で話すことはできても、正しい綴りが書けない生徒がいる。	・英単語に関する帯活動を取り入れ、英語の苦手な生徒であっても取り組めるようにする。	○単元テストや単語テストを実施する。8割の生徒が合格点を取れるようにする。
	・授業で用いた英単語や文構造を用いて表現することについて、個人差が大きく見られる。	・ペアでの活動を取り入れる。 ・ねらいを明確化した表現活動を取り入れる。ワークシートを工夫し、生徒の意欲を喚起する。	◎パフォーマンステストを実施する。テスト後の自己評価で、表現力が向上したと感じる生徒が7割以上を目標とする。
道徳の教科	・多面的、多角的に物事を捉え、自身の考えを深める経験が必要である。	・他の生徒の意見を聞く機会を設け、対話的な学びの機会を増やし、自分の考えを深められるようにする。	◎1時間の授業の中に、ペアやグループでの話し合いの場面や、意見発表の場面を毎時間取り入れ、様々な考え方に触れる機会をつくる。
総合的な学習の時間	・調べ学習では情報を収集することはできるが、自分の考えをまとめたり、発表を工夫したりすることが苦手な生徒が多い。	・SDGs、校外学習の調べ学習や事後学習のまとめ、発表会を行うことでまとめ方や発表の方法を学習する。	◎実物投影機などの視聴覚機材やタブレット端末を活用した発表会を学級や学年で行い、確認する。